

5 普及啓発事業

5-1 第70回全国植樹祭開催理念継承事業

ア 木の香る都市（まち）づくり事業

- 事業計画20件の進捗率は155%
- 2021（令和3）年度末現在の支援施設実績は31件
- 一件あたりの利用者数が多い施設（PR効果の高いモデル的な施設）への支援が年々増加

■第2期事業計画の年度別事業実績及び計画の進捗率

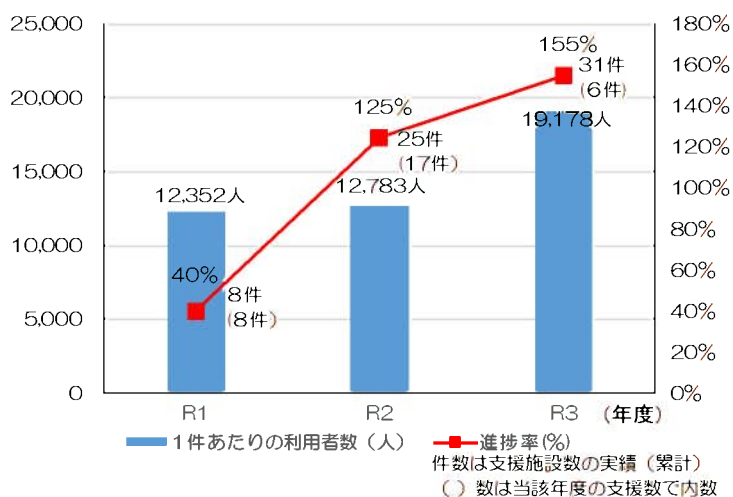


図3-17 支援件数と事業量の進捗率
及び1件あたりの利用者数

- ・事業の周知に伴い、1件あたりの利用者数が多いモデル的な施設への支援が年々確実に増加し、民間分野における木造・木質化等の進展を通じて、県民の森と緑に対する理解が深まっています。
- ・また、新しい構造や建材を採用した先進的な工法、建設コストを抑える設計工夫を採用した建築物や、デザイン性の高い木質化・木製備品の導入など意欲的で様々な木材利用の取組みが増えています。

第70回全国植樹祭開催理念継承事業 木の香る都市づくり事業の実施状況（その1）

【支援施設事例】

ささしま高架下オフィス（木造）

～東海道新幹線高架下に建設された木造2階建オフィスビル～



内 観



外 観

- 鉄道高架橋に影響を与えないよう建物の軽量化と、オフィスの大空間確保を両立させるため、高機能繊維と木材のハイブリッド新素材の梁を採用することで、木を現しつつ柱のない広いオープンスペースを確保し、開放的なオフィス空間を創出しています。
- 商業施設が集まるエリアにあり、施設横を走る鉄道の車窓や街路から、ガラス張り外壁を透して木構造を見ることができます。
- 主要構造材（梁）に愛知県産の木材を使用しています。

第70回全国植樹祭開催理念継承事業 木の香る都市づくり事業の実施状況(その2)

【支援施設事例】

あおぞら学童保育クラブ(木造)

～県産木材を利用した「木造板倉造りの学童保育所」～



内 観



外 観

- 県産木材を利用した木造施設建設(板倉工法)のモデルケースとして、本県から全国へ発信しています。
- 心地よい肌触りの無垢材に囲まれた空間で、木育の効果も期待できる施設となっています。

～ トピックス⑥ ～ 木材利用の促進に関する基本計画の策定

木材の利用の促進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」(2021年10月施行)及び「愛知県木材利用促進条例」(2022年4月施行)に基づき、「木材利用の促進に関する基本計画」を策定しました。

<基本計画で掲げる主な事項と内容(抜粋)>

【木材の利用の促進に関する主な基本的事項】

- 木造・木質化の推進
 - ・商業施設やオフィスなど民間建築物における木材利用の促進
 - ・県の公共建築物及び公共工事では積極的に木質資源の利用を推進
 - ・木製備品の導入の推進



都市の木造・木質化イメージ

- 木造建築物に精通した技術者等の育成
- 木材利用促進の日(10月8日)及び木材利用促進月間(10月)を中心に木材利用の情報発信
- 県産木材を活用した新しい技術や製品の開発の推進
- 建築物木材利用促進協定制度を活用し、民間分野における木材利用を促進

【木材の利用に関する目標】

県の公共建築物	原則、県産木材による木造化(※コスト・技術面で困難な場合は除く) 木造化が困難な建築物については、内装及び備品の木質化
住宅を含む 民間建築物等	木造化の促進 木造化が困難な建築物については、内装及び備品の木質化

【県産木材の利用及び供給に関する基本事項】

- 県産木材の利用を優先し、県産木材以外の場合は、近接地域で生産された木材を優先する。

第70回全国植樹祭開催理念継承事業 木の香る都市づくり事業の実施状況(その3)

【支援施設事例】

名古屋ビルディング桜館（内装木質化）

～緩やかな曲線を描く杉ルーバーで迎えるエントランス～



内 観



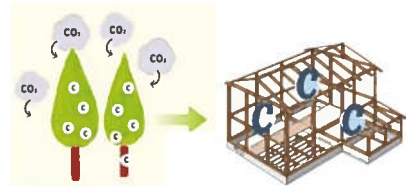
外 観

- 縦横の木材が緩やかなカーブを描く印象的なエントランスホール。オフィス街の中に木のぬくもりを感じます。
- 名古屋駅と国際センター駅の間に立地し、人通りの多い道路からエントランスの木質部分が見え、多くの人に木材の魅力が伝わるデザインとなっています。

～ トピックス⑦ ～ 木材利用の促進の意義について

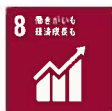
- 愛知県では、戦後盛んに造林されたスギやヒノキの人工林の多くが利用期を迎えており、木材利用の促進は、山村の主要産業である林業・木材産業の活性化や森林整備を通して、森林の水源かん養機能等の公益的機能を発揮していくうえで重要です。

- 木材は、樹木が吸収した二酸化炭素を炭素として長期間貯蔵し、鉄やコンクリート等の資材と比べて製造時のエネルギー消費が少なく抑えられ、かつ再生林による再生が可能であるなど、地球環境への負荷が少ない資源であることから、木材を用いた建築が注目されています。



<木造建築物は「第2の森林」>

- さらに、木材利用の効果として、木には人の心理や身体に優しく働きかける、あるいは学習や生産性を上げるなど、さまざまな効果が科学的に実証されています。
- このことから、木材利用は近年関心が高まっているカーボンニュートラルや、SDGsの17の目標のうち、7つの目標達成に貢献する取組となります。



イ 全国植樹祭開催理念継承イベント開催事業

次代を担う小中学生を始めとする県民を対象に、第70回全国植樹祭の開催理念を継承し、森と緑づくりへの理解を深めるためのイベントを開催しました。

全国植樹祭開催理念継承イベント開催事業の実施状況



スクールステイ苗木を育てる児童



学校の樹木から加工したベンチ

- 全国植樹祭で行われたスクールステイ苗木の取組を継承し、小中学校で育成した苗木を県植樹祭の参加者に記念樹として配布しました。
- 小中学校において校内の樹木を伐倒し、ベンチや教室名札等に加工し、活用してもらうとともに、校内に苗木を植えて育てるという体験活動を実施し、森と緑づくりに対する理解を深めました。

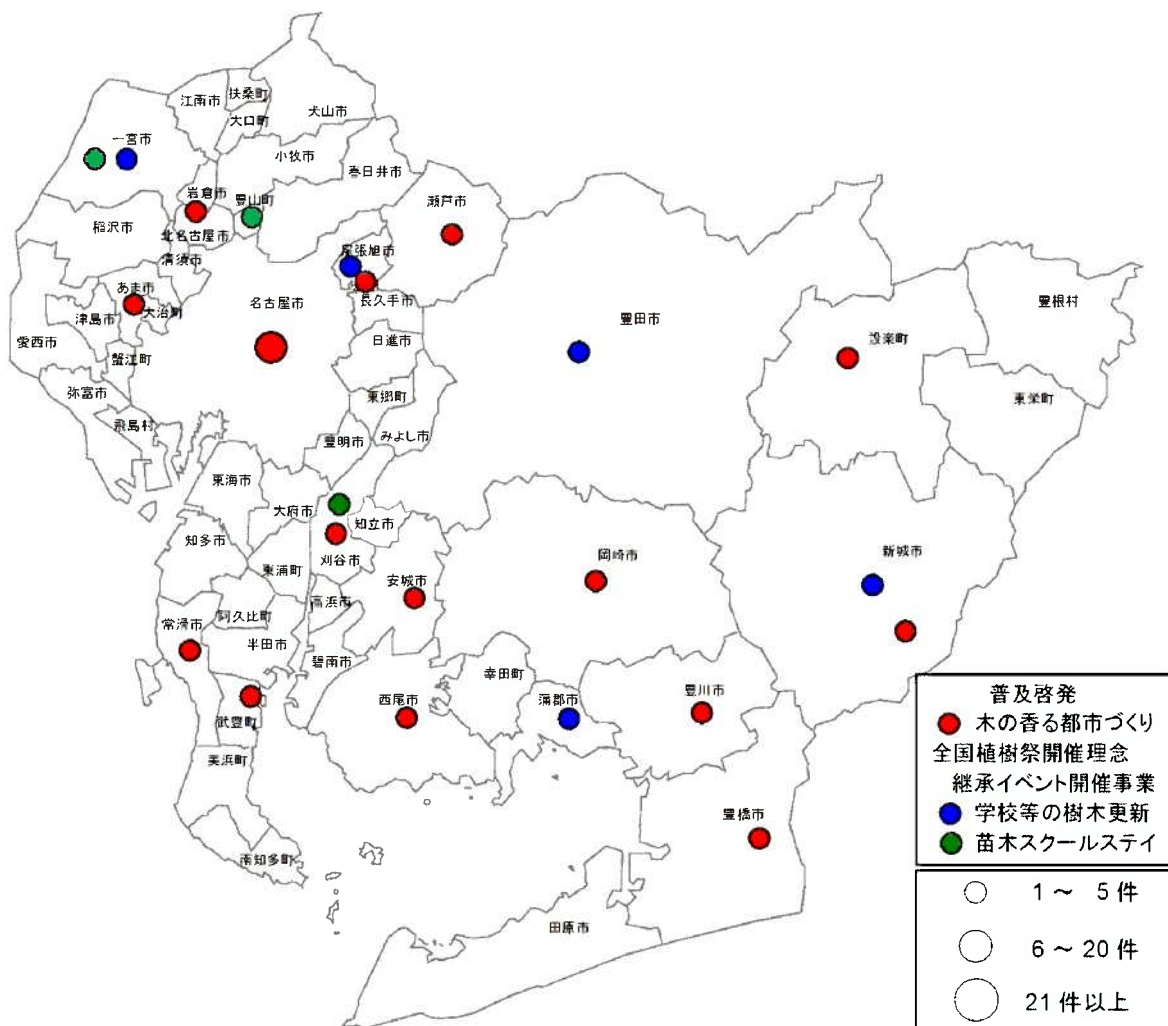
～ トピックス⑧ ～ 記念植樹に使う苗木のスクールステイ

- 2019（令和元）年6月に開催した第70回全国植樹祭では記念植樹に使用する苗木を「苗木のスクールステイ」として、愛知県内の小中高生やみどりの少年団の皆さんに育成いただきました。
- 全国植樹祭開催理念継承イベント開催事業では、次代を担う小中学生の皆さんに緑の大切さと緑づくりへの関心を高めていただくため、全国植樹祭の「苗木のスクールステイ」の取組を継承し、県植樹祭で配布する記念樹を開催地の小中学校で育成していただいています。
- これまで、刈谷市、一宮市、豊山町の3市町において、小中学校9校の皆さんに花を楽しむことができるアジサイやムクゲの苗木を育成していただきました。
- 2022（令和4）年に豊山町で開催した県植樹祭では、式典のなかで、豊山町の3小学校の代表から主催者3名にスクールステイ苗木を贈呈しました。参加者全員に苗木を配布し、県内各地で緑への親しみの輪が広がりました。
- 今後も、小中学生を始めとする県民の皆さんを対象に、森と緑づくりへの理解を深めていただく取組を進めていきます。



県植樹祭でのスクールステイ苗木の贈呈

■事業実施箇所 (R1～R3 年度)



～ トピックス⑨ ～ 森林環境譲与税での取組と役割分担

○ 2019（平成31）年3月に「森林環境税」及び「森林環境譲与税」が創設されました。森林環境税は2024（令和6）年から徴収されますが、それに先行して2019（令和元）年度から市町村及び都道府県に対して、森林環境譲与税が譲与されています。

○ 第2期事業計画に移行するに当たり、人材育成や木材利用に関するメニューの見直しを行い、一部メニューを廃止しました。間伐については、県内に間伐を必要とする森林が依然として多く存在しています。

○ このため、県と市町村で役割分担を行い、相互に補完し合いながら森林整備を行っています。

「森林環境譲与税」の用途
 市町村…間伐や人材育成・担い手の確保、
 木材利用の促進や普及啓発等の森林
 整備及びその促進に関する費用
 県…森林整備を実施する市町村の支援等
 に関する費用

5-2 その他普及啓発

森と緑づくりの必要性や、あいち森と緑づくり事業の取組への理解促進のため、様々な機会を通じて、普及啓発を行いました。

■森と緑づくり体感ツアー

○ 森や緑の現状を県民の皆様にご覧いただき、体験いただき、森と緑づくりへの理解を一層深めることを目的としたイベントを開催しました。

2019（令和元）年度の体感ツアーまでは、最大 80 名の県民を募集して大型バスに分乗し開催していました。しかし、2020（令和2）年度からは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「体感イベント」と名称を変更して参加規模を 40 名に縮小し、参加者に現地集合・現地解散していただく形で開催しました。



2019（令和元）年度
＜体感ツアー＞
都市の緑体験コース：31名
県営大高緑地（名古屋市緑区）
黒笹工業団地（みよし市）
森の緑体験コース：29名
きららの森（設楽町）
【木の実クラフトの様子】



2020（令和2）年度
＜体感イベント＞
40名
愛知県緑化センター（豊田市）
【間伐体験の様子】



2021（令和3）年度
＜体感イベント＞
38名
県営大高緑地（名古屋市緑区）
【自然散策の様子】

■包括協定に基づく大型商業施設でのPR活動（毎年）



名古屋市内の大型商業施設でPR活動を行っています。

あいち森と緑づくり税や事業の認知度、6つの事業（間伐・花粉症対策苗木の植栽・里山林の手入れ・都市緑化・環境学習・木材利用）の中で最も関心が高い事業についてアンケートを行っています。

■その他さまざまな場所でのPR

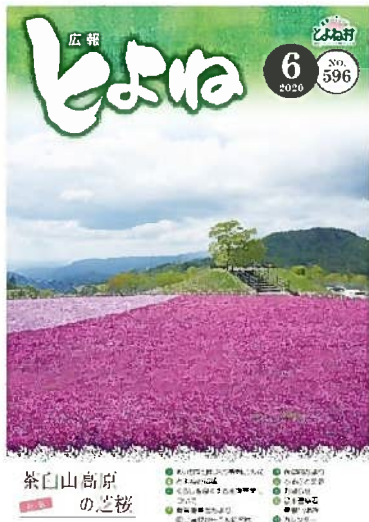


本庁舎～西庁舎間の地下通路でのパネル等の掲示



本庁舎公開イベントで来場者に周知
2019（令和元）年11月3日（日：祝）

■各種マスメディアでのPR（『市町村広報誌』から関係部分を抜粋）



広報とよね（2020年6月号）であいち森と緑づくり事業が紹介されました。

■各種マスメディアでのPR（ケーブルテレビ『ティーズ』から関係部分を抜粋）



豊橋市・新城市・田原市のコミュニティチャンネル「ティーズチャンネル」の【いいじゃん新城】で、2020(令和2)年10月28日～11月4日に放映されました。※現在も閲覧可能です。

http://www.tees.ne.jp/tees/iijanshinshiro/iijanshinshiro_00530.html

■その他の取組

○県政お届け講座での普及活動

広報広聴課の県政お届け講座に「あいち森と緑づくり税を活用した取組 ～山から街まで緑豊かな愛知をめざして～」を登録しています。

近年は、大学の地方財政や租税法の講義の一環として申し込みがあります。

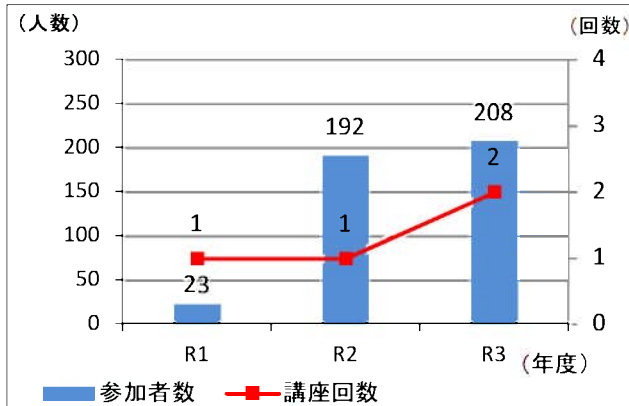


図 3-5-3 お届け講座の開催回数と参加者数

大学での県政お届け講座の講義状況

県政お届け講座を受講した学生の感想

- 森は本来所有者が管理すべきだが、自然は共通の財産と捉え、税によって整備するのは個人的には良いと思った。
- 使い道が曖昧な税金より使い道の明確な「あいち森と緑づくり税」は、税を払う人々の理解も深まるだろうし、自分も協力したいと思う。
- 税や事業の周知が不十分だと思う。教育機関での講義や授業を行い、次代を担う若者の理解を深めることが大切だと思う。
- 森林学習プログラム（伐採体験やイベント等）への参加が、大学の単位取得に繋がるよう、産官学の連携を期待する。

森ずきんちゃん SNS (Facebook)

Facebook では、様々な取組や情報を掲載しています。

- (1) 第 70 回全国植樹祭あいち 2019 の理念継承に係る取組
- (2) 森林・林業全般に係る取組
- (3) あいち森と緑づくりに係る税及び基金や事業に関わる取組
- (4) 前(1)～(3)の他、森と緑づくりに関わるイベント情報等

<https://www.facebook.com/syokujusai.aichi2019/>

～ トピックス⑩ ～ 時代が求める PR 手法とイベント

- 情報発信の手法は、以前と比べると大きく様変わりをしています。広報誌やチラシなどの紙媒体から、パソコンやスマホを駆使した SNS に変化しています。今後、普及啓発を進めていく際の発信手法やイベントで体験したいことを大学生へ聞き取りしました。

世代別に情報発信を行う際の効果的な方法

順位	30 歳未満	30 歳以上
1 位	Twitter	市町村広報誌
2 位	Instagram	県・市町村 HP
3 位	YouTube	チラシ(公的機関)
4 位	市町村広報誌	Facebook

参加してみたいイベントは？

順位	体験したい内容
1 位	実際に木を植える体験がしたい
2 位	自然の森の中を色々散策したい
3 位	木の実や枝などを使って工作したい
4 位	自分の手で実際に伐り倒したい

※県政お届け講座 受講学生アンケート結果

○あいち森と緑づくり基金への寄附に対する式典

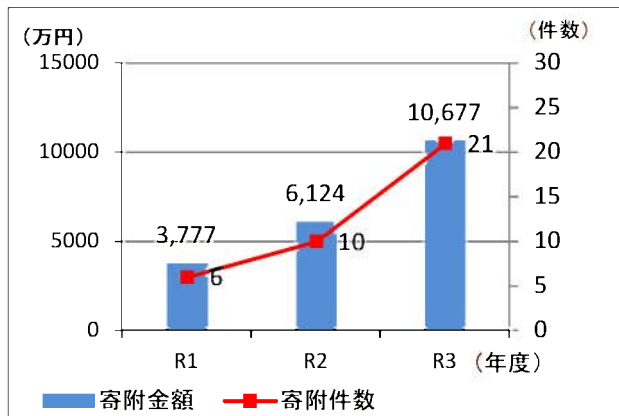


図 3-5-4 基金への寄附額と寄附件数

法人や個人の皆様から「あいち森と緑づくり基金」へ寄附をいただいています。

第2期では、第1期に比べて寄附件数が増加傾向にあります。

これは、2020（令和2）年7月1日からスタートした「レジ袋有料化」に伴い、収益の一部を寄附していただく法人が、2020（令和2）年度は2件、2021（令和3）年度は7件と、増加傾向にあります。



贈呈式での寄附者(左)と知事(右)



寄附覚書締結式での寄附申出者と知事(覚書を持つ2人)

○あいち森と緑づくり功労者へ感謝状の贈呈

あいち森と緑づくり森林整備事業の推進に際して、自発的に森林整備活動に取り組んでいる地域や団体に対して、知事から感謝状を贈呈しています。人工林整備では間伐の団地化を推進した地域を、里山林整備では長期に渡って自主的な活動をされている団体に表彰しています。

これまでに表彰されている団体は、資料編（P●●参照）に記載しています。



2020（令和2）年度に功労者表彰を受けた方々（右側2人）



2019（令和元）年度に功労者表彰を受けた活動団体の皆さん